

【学校教育目標】「感謝の心を持ち、自ら学び、たくましく生きる子供の育成」



学校だより 堂崎つ子

第 16 号

令和 7 年 10 月 21 日

南島原市立堂崎小学校

校 長 末吉 優

一雨ごとに、これまでの暑さが和らぎ、朝夕は、ずいぶん過ごしやすくなりました。心地よい風とともに、玄関に掲げている「あいさつします わたしから」というあいさつ推進の旗が揺れる様子とともに、朝の子供たちの集団登校の中にも「爽やかなあいさつ」を後押ししているように感じます。



<図書室掲示：ハロウィーンver.>



<↑ ローゼル(ハイビスカスの一種)>



引き続き、御家庭でも爽やかなあいさつ推進に御協力をお願いします。

4年生校外学習 【10月14日(火)】

日頃の教室での学びを更に広げるために、地元にある口之津歴史民族資料館、貝瀬浄水場、西望公園の3カ所を見学しました。

歴史民俗資料館では、古野兄弟が魚群探知機を発明するまでの経緯について学びました。

浄水場では、市民の健康な生活を支える「水」について、施設とその仕組み、工夫について学びました。私たちの生活を豊かにし、何気なく使っている水道水ですが、節水に心がけ、大切に使わなければならない思いを新たにしました。

皆さんは、日本を代表する彫刻家：北村西望氏、魚群探知機を開発した「古野電気」の創始者：古野清孝氏、古野清賢氏の功績について御存知のことと思います。11月には、先人の功績を称え、「北村西望賞教育美術展、古野賞科学展」が開催されています。

その北村西望氏の生家である西望公園を訪れ、様々な彫刻・芸術を見学しました。彫刻等に込められた願いを感じ取ったのではないのでしょうか。



2年生生活科 まちの公共施設を見学しました

10月2日(木) 堂崎郵便局見学

白石局長様手作りの紙芝居により、切手や郵便局の仕事についてクイズを交えて説明していただきました。また、事前にお知らせしていました質問内容について、懇切丁寧に、対応していただきました。

見学により、子供たちは驚きと新たな疑問を抱き、深い学びにつながったようでした。



10月15日(月) 有家図書館見学

毎週月曜日は、図書支援員の林田かおる先生に來校いただき、堂崎小学校図書館の環境整備、修理等をお願いしています。

今回の見学では、有家図書館における本の並べ方の工夫などについて説明いただきました。初めて見聞きしたことが多く、子供たちは関心を抱いていたそうです。



10月8日（水）全校朝会：3年生からの発表

今回の児童集会は、3年生からの発表でした。一人一人が自分の名前の由来について発表しました。発表するにあたり、学級では、「名前にはどのような願いが込められているだろうか?」という宿題を出されました。そういった中で、改めて子供の誕生について、家族そして親戚中で喜び、子供の成長を願っていらしかったことを想起されたことと思います。名前に込められた思いや願い・響き(音)・意味などを大切に、「～くん」「～さん」という呼び方を大切に、そして、自分や周りの人を大切にしてもらいたいと思います。



5年生校外学習：雲仙岳災害記念館・旧大野木場小・砂防みらい館見学による学び 【10月17日（金）】

ふるさと島原半島で起きた自然災害について知り、復興までの様子や人々の暮らしについて学ぶことを大きな目的として学習に臨みました。

雲仙岳災害記念館（がまだすドーム）では、

- 島原大変劇場（1792年の噴火で起きた地震で、眉山が大崩壊し、9mの津波を引き起こした災害）について
- 平成の大噴火シアタ（「島原半島の起こりと成り立ち」）について
 - ・1991年6月3日の大灰砕流について。なぜ43名の犠牲者が出たのか。
 - ・復興へ向けて歩んできた島原の紹介。
- 体験等のコーナー（クイズにチャレンジ）
 - ・復興のために導入された無人化施設、重機の遠隔操作に関すること
 - ・水無川導流堤の仕組みを学ぶ
- ワンダーラボ（・火山の噴火の仕組み・島原半島……3種類の温泉）

砂防みらい館では、土石流・火砕流・溶岩ドームの監視、緊急時における無人施工操作について、災害や復興についての資料展示がなされていました。

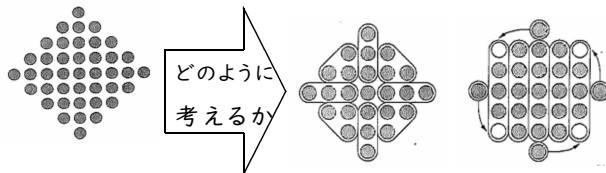


算数の研究授業より……南島原市教育委員会指定「生きるための学力と人間力の向上」

【10月9日（木）4年生算数「計算のやくそくを調べよう」】 4年：松島教諭

ドット図を見て、一つの式で表してドットの数を求めようという学習でした。個人解決を図る、グループで考える、そういった中で、いかに自分たちの考えを説明し、話し合ったり、説明したりして思考力を高めていけるかが学習のねらいでした。

「まとまりをつくる」、「動かす」、「囲み方を考える」などの考え方は、2年生のかけ算「数きつめられたドットの数を求める学習」から関連し、5年生の「特別な立体の体積の求め方」にもつながる学習です。つまり、算数学習においては（どの教科においても同様ですが）、学習の見方や考え方は、低学年の時から積み重ね、実際に活用していくことが大切です。



【10月15日（水）1年生算数「どちらがおおい」】 1年：門畑教諭

「二つの容器に入っている水は、どちらがどれだけ多いか?」という問題において、「どちらがどれだけ多いか、比べ方を考えよう。」というめあてを立て、学習を進めました。長さ比べを思い出し、同じ大きさの入れ物のいくつ分で表すといふという見通しを立て、グループごとにその解決を試みました。グループの友達と、会話を交わすこと、算数的操作活動を行うことにより、子供たちの思考力は高められたと思います。友達と自分の考えを確かめ合う、確かめ問題において自力で解決しようとする中で、子供たちの学力は高まっています。

